

令和5年度 福生市立学校 学校経営方針

学校名 福生市立福生第二中学校

校長名 森 保 亮

公印

教育目標

人権尊重の精神に基づき、創造性に満ち、心身の向上を目指して、他と協力できる個性豊かな実践力のある人間を育成する。

・豊かな心と知性を養う ・強い意志と体力を育てる ・勤労意欲と責任感を培う

1 目指す特色ある学校像

本校教育目標のもと、次のように【目指す生徒の姿】を示し、加えて本校が【最も重視して培うべき資質・能力】を定め、これらに迫る教育課程を編成し教育目標の達成を目指す。

【目指す生徒の姿】

- I 考えを深め豊かに表現する生徒
- II 生命を尊重し心身を鍛え健全に生活する生徒
- III 自分自身と自分が関わるすべての人を大切にする生徒
- IV 将来を見据え見通しをもって学び行動する生徒

【最も重視して培うべき資質・能力】

- ① 豊かな言語能力
- ② 計画的に行動する力

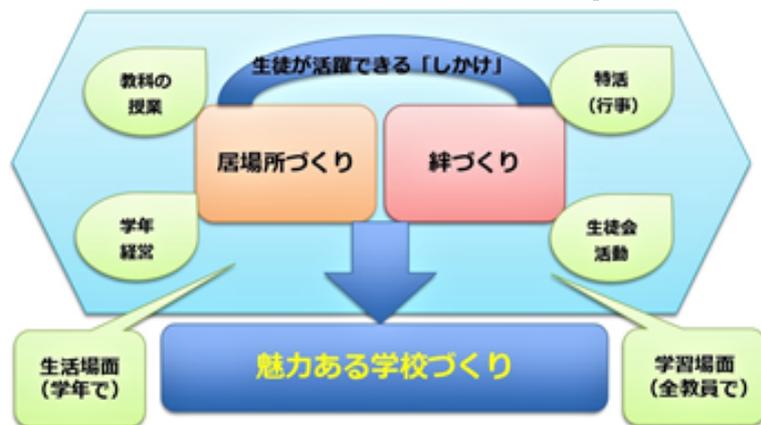
指導上のキーワード

自立・共生

2 学校経営の目標

(1) 中期的な目標（令和5年度～7年度）

- ① 「主体的に学ぶ生徒を育てるための工夫～生涯にわたって能動的に学び続けられる力を育成するために～」を研究主題として取り組んだ令和3・4年度福生市研究奨励校としての取組を継続しつつ、新たに令和4・5年度不登校児童・生徒支援調査研究校として「一人一人の生徒が夢や希望をもって生活する学校づくり～生徒が活躍できる「仕掛け」の工夫～」をテーマに「魅力ある学校づくり」を行う。



- ② 研修を通して、深い生徒理解に基づく生徒及び保護者との信頼関係を構築し、生徒がより良い生き方を追究するように指導・助言できる教員を育成する。
- ③ 地域社会から信頼され、かつ貢献できる学校とするため、CSとしての活動をさらに充実させ、「社会に開かれた教育課程」の理念を実現する。

(2) 本年度の目標

- ① 不登校児童・生徒支援調査研究校としての発表を成功させる。「魅力ある学校づくり」として、主体的に学習し将来に向け希望をもって生活する生徒の育成、信頼関係で結ばれた学級や学年作りに取り組む。
- ② 教員の人権感覚を磨くとともに、特別支援教育、不登校対策等についてのOJTを充実させ、生徒及び保護者との信頼関係を築くことのできる教員の育成を図る。
- ③ CSとしての強みを最大限に生かし、生徒への支援活動や交流活動を通して地域社会との協働を進める。

3 目標達成に向けての課題

- (1) 全教職員が人権感覚を磨きコンプライアンスに基づいた指導を行うとともに、指導指針に定められた手だて等を実践に行うこと。
- (2) 教員が「目指す生徒の姿」「最も重視して培うべき資質・能力」を常に意識し職務に取り組むこと。また、これまでの中学校教育の成果を良き伝統として受け継ぎつつ、新たな課題に対し前向きに取り組む主体的に工夫・改善に努めること。

4 経営の具体策

(1) 授業改善の継続（授業における「居場所づくり」）

- ① 単元や題材のまとまりを重視し何をどのように学ぶかを確認する。また、何ができるようになったかを振り返る等の活動を通して、生徒の意欲を高め主体的な学習を促す。
- ② 各種調査等により一人一人の学習状況を把握し、ICTを効果的に活用するなどして授業改善を行い、それぞれの学習の進捗状況等に応じた取組が可能となる「個別最適な学び」を実現する。
- ③ 各教科等における協働的な学習での学び合いや探究、発表の活動をとおして、自らの考えを深め適切に判断し表現する力の育成を図る。

(2) 生徒の主体性を重視した学年・学級経営、学校行事、生徒会活動（「絆づくり」）

- ① 不登校児童・生徒支援調査研究校としての取組において、「学年・学年経営」「学校行事」「生徒会活動」の3分科会を設ける。生徒が活動に価値を見だし、主体的に活動に取り組み、達成感や連帯感を得られる支援を追究し実践する。
- ② 情報活用能力の育成を各教科等の年間指導計画に位置付け計画的に行う。また、「SNS東京ノート」等を活用し、生徒が自ら考え行動することを重視し、デジタルシティズンシップの育成に努める。

(3) 生徒理解、特別支援、学校不適応対策について

- ① OJTを充実させ教員の人権感覚を磨くとともに、特別支援教育、不登校対策等について造詣を深めさせ、深い生徒理解に基づく生徒及び保護者との信頼関係を構築し、生徒がより良い生き方を追究するように指導・助言できるようにする。
- ② 個別支援委員会（校内委員会）での情報共有を行い、特別支援教室及び日本語学級と通常級の連携を保ち、全教員が一体となった支援を行う体制を維持する。
- ③ 不登校加配教員を、学校不適応・不登校対策担当とし問題解決の推進役とする。特別支援教育コーディネーターや外部機関と連携し、対応策を立案し支援の充実を図る。

(4) CSとして

- ① 放課後学習支援（水曜学習教室）の支援員を増員するとともに参加者の拡大を図る。
- ② 「ふたばサポートチーム」（CS委員会）と連携し健全育成の取組を活性化する。
- ③ 学校支援地域組織と協働しボランティア活動や防災教育に関する取組を充実させる。

(5) 二中学区の連携推進

二中学区交流会で提案された取組について確実に具体化し一貫性ある指導を実現する。

5 年度末のチェックポイント

- (1) 生徒及び保護者アンケートにおける主体的な学習に関する肯定的評価が前年度を上回る（目標85%）。また、各種学力調査においても同様の検証を行う。
- (2) 不登校生徒の出現率について目標を3.5%以内とする。